

2018年8月3日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ  
(コード番号 8306)  
株式会社三菱UFJ銀行

## インドネシア大手商業銀行バンクダナモンへの戦略出資について（第二段階）

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 <sup>ひらの のぶゆき</sup>平野 信行、以下MUFG）の子会社である株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 <sup>みけ かねつぐ</sup>三毛 兼承）は、2017年12月26日に公表しましたインドネシア共和国（以下インドネシア）の大手商業銀行PT Bank Danamon Indonesia, Tbk.（以下バンクダナモン）への戦略出資<sup>[1]</sup>について、本日、第二段階としてAsia Financial (Indonesia) Pte. Ltd.（以下AFI）およびその他関連会社（AFIと併せて、以下売り手）より、バンクダナモン発行済株式総数の20.1%<sup>[2]</sup>を追加取得いたしました。これにより、三菱UFJ銀行はバンクダナモン発行済株式総数の40.0%を保有するインドネシア法上の支配株主となり、バンクダナモンはMUFGおよび三菱UFJ銀行の持分法適用会社となります。

今般、追加取得したバンクダナモン発行済株式総数の20.1%は、バンクダナモンの株式価値を一株あたり8,921インドネシアルピア（以下IDR、なお、1IDRあたり0.0077円で換算した場合、約69円）として、総額約17.187兆IDR（同約1,323億円、バンクダナモンの2018年第2四半期末時点の純資産額に対する倍率（PBR2.0倍）に一定の調整を加えた価格）にて売り手より取得いたしました。第二段階での株式取得完了後も、Fullerton Financial Holdings Pte. Ltd.の完全子会社であるAFIはバンクダナモン発行済株式総数の33.8%を保有し、インドネシア法上の支配株主であり続ける見込みです。

このたびの戦略的出資の第二段階の完了はMUFGにとって重要な節目であり、今後、MUFGおよびバンクダナモンは、シナジー効果の発揮に向け、両社の知見を融合し、インドネシアで事業展開されるお客さまに対し、総合的かつ比類ないサービスを提供してまいります。

<sup>[1]</sup>2017年12月26日発表のプレスリリースは以下リンクをご参照ください。

（ウェブサイトへのリンク）[http://www.bk.mufg.jp/news/news2017/pdf/news1226\\_2.pdf](http://www.bk.mufg.jp/news/news2017/pdf/news1226_2.pdf)

<sup>[2]</sup>間接的に追加取得した株式数も含まれます。

以上

### MUFGによる将来予想に関する記述についての注意事項

本資料には将来予想に関する記述が含まれています。将来予想に関する記述には、「予定する」、「見込む」やその他類似する表現により将来の状況等を説明しております。実際の結果等は、将来予想に関する記述にて見込まれる予想とは大幅に異なる場合があります。MUFGは、法令により求められる場合を除き、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を負いません。したがって、本資料に含まれる将来に関する記述はあくまでも現時点でのものであり過度に依存いただくことのないようご注意ください。